くすりのキュート「心の栄養剤」ファイルNO13

家族にはいろいろな風景がある。そして、そのそれぞれの風景は、家族ひとりひとりの、こころの風景でもある。

会社勤めの十八年間、私はずっと人事部に所属していた。人事部は一見、華やかそうに見えるが、実は最もつらい職場なのである。社員のサラリーマンとしての悲しさを見るのが、人事部の仕事みたいなものである。

会社勤務の頃、五年に一回行われる会社の大運動会の会場で、私はある社員の家族の風景を見て、とても感動した。その大運動会は、会社が大きな遊園地を一日貸し切って、家族ぐるみで行われる大規模なものであった。

その遊園地の大観覧車の下で、ある社員の家族が楽しそうに弁当を広げていたのである。両親と小学生の女の子と、幼稚園の女の子の一家四人が、楽しそうに話しながら弁当を食べていた。

実は、この父親は会社では能力的にあまり評価されていない人だったのである。毎年、配置転換の対象となり、人事部の私は、職場の上司に頼まれて、その人の受け入れ先を探し回ったが、なかなか受け入れてくれる職場が見つからないのであった。とても真面目な人なのだが、仕事のスピードが遅いのであった。

その父親を囲んで、一家四人が楽しそうに弁当を食べていた。父親はそんな子供達を見ながら、満足そうにうなずいていた。父親が会社でどんな評価を受けていようと、そんなことは、この女の子達にとっては全く関係ないのである。そして、この子供達にとってはかけがえのない父親なのである。私は思わず目頭が熱くなった。

その時、小学生の女の子が言った。

「お父さん、今日は楽しいね。いい会社に入ってよかったね」

すると、母親が言ったのである。

「そうよ。お父さんのおかげよ」

私はまた、目頭を押さえていた。そして、その場をそっと離れたのであった。

（荒木忠夫著・「こころの風景」より）

この話を聞いて私は、直ぐにキュート玉名店に15年も長く勤めている田中さんの事を想いました。田中さんの口ぐせがまさしく**「お父さん（ご主人）のお陰で」**なのです。いつもその言葉を聞く度に、私自身も爽やかな気分になります。

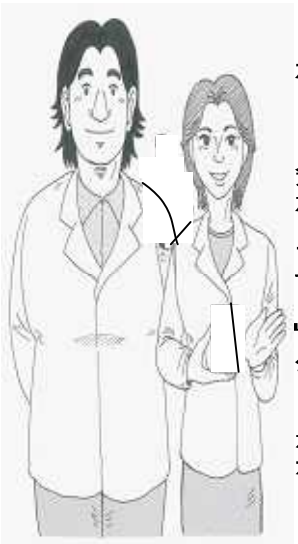
（田中さんに逢うと安心する～、田中さんに逢うと元気になる～などと言って頂くお客様が多いのも同じ事かもしれません）

実際、店においても年令や病状にかかわらず、明るく、前向きに病気など吹き飛ばされていく方の多くの共通点は「感謝の言葉・話」を口ぐせの様にされる所のような気がします。

日本にある**「お陰様」**というすばらしい言葉を健康的な生活を送る栄養剤にしたいものです。

P.S.

私も妻（玉名店）と結婚して22年になりましたが、思い出すとず～と昔は**「お父さんのお陰」**と言う言葉を聞いた様な記憶がありますが、最近は**「お母さんのお陰」**という言葉ばかり耳にするような気がします。

「まぁ、それは仕方ないか？」

「まぁ、それでもいいかという気がします。」少しトホホ・・・